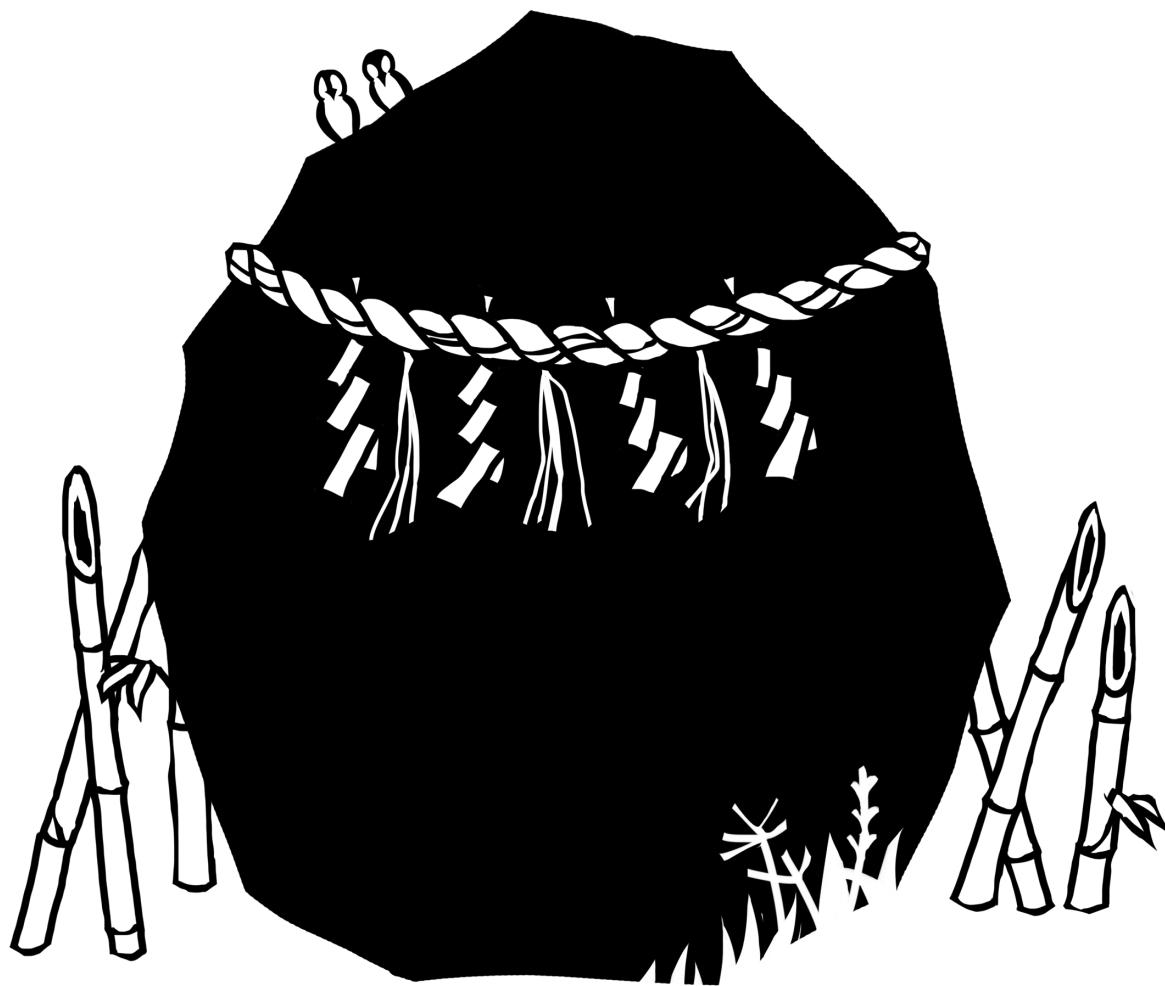


# うんにや

The story of N's rock.  
by Aoki Galileo & Izumi Ann

作 ◆ 青木ガリレオ&出泉アン  
絵 ◆ 溝上なおこ





An eye for an eye makes the whole world blind.

Mahatma Gandhi

「め　　め　　すべて　　せかい　　もうもく　　やみ  
「目には目を」では、全ての世界は盲目の闇となる

マハトマ・ガンジー

## 険しい山岳地帯さんがくちたい

険しい山岳地帯の間に、田畠が広がる小さな村がありました。四方を山に囲まれた盆地で、山から流れる川が村に水をもたらし、高地でありながら水田もある豊かな村でした。

村には数件の家しかありませんでしたが、皆、大家族で百人近くの人が住んでいました。牛や馬の脇わきを鶏が地面をつついて歩くのどかな集落でした。

その村にうんにやが現れたのは、冬のとても寒い日でした。

まるで山に食べものがなくなつて、里に出てきた野生の熊か猪のようでした。山のように背は高く、腕や肩や胸は筋肉で盛り上がり、そして、顔は丸々とした笑みをたたえた大男でした。衣類らしきものは、腰に木の皮を巻いているだけで、ほとんど身につけてはいませんでした。大男の肩の周りには、椋鳥が楽しそうに飛び回っていました。

大男の名前も年齢もわかりませんでした。ただ、話せる言葉は「うんにや」だけでした。「うんにや」とは、この地方での「いいえ」、「いいや」つまり「ノー」の意味でした。なぜ、その言葉だけ話せたのか、誰が教えたのかもわかりませんでした。

「おまえは話ができるのか?」と聞いても、答えは、「うんにや」でした。

「おまえは、馬鹿ばかなのか?」と聞いても、にこにこと笑いながら、答えは、「うんにや」でした。言葉が通じないので、なぜ山にいたのか、山でどのように暮らしていたのかも聞くことはできませんでした。

村人は名前がわかるまで、この大男をうんにやと呼ぶことにしました。